

校友会会報

No. 26



酪農学園大学同窓会校友会

2020年1月1日発行

〒069-8501 北海道江別市文京台緑町582番地 同窓生会館内
TEL (011) 386-1196 FAX (011) 386-5987
E-mail rg-kouyu@rakuno.ac.jp HP https://kouyukai.rakuno.org

発行 酪農学園大学同窓会校友会
印刷 社会福祉法人 北海道リハビリ

人生の行事としての校友会

酪農学園大学同窓会校友会 会長 小山 久一

はじめに

会員の皆様におきましては各分野でご活躍のことと推察申し上げます。また日頃から酪農学園大学同窓会校友会（以下、校友会）についてご理解とご協力を賜り深く感謝申し上げます。いま全国民が注目しているのは近年の日本列島での広範囲に起こっている強風・大雨・河川の氾濫の影響であります。地球温暖化の影響であることは間違いないようですが、会員の皆様の被害の程度や酪農への影響を心配しております。被災された皆様には心からお見舞いを申し上げます。

人生の指標

さて、我々の人生において「健康な体や心豊かな生活」を祈らざるにはられません。とくに現代の社会のように不安定な環境や偶然性の多い中にあるはその思いを強くしています。しかし、人生は一様ではなく、なかなかその様な祈りは達成しにくくなっています。その中にある大切なのは向かう憧れや希望を示してくれる「指標」となるものであります。校友会の行う各種行事はそのような「指標」になることができると思います。入学式や卒業式における校友会からの記念品には同窓生からの「指標」となる思いが込められていますし、大学を卒業した後10年単位で開かれる同窓会においても、いろいろな人との出会いを通して、励ましや背中を押してもらうことができ「指標」となりうるでしょう。さらにホームカミングデーのような行事においても人との出会いや学園の様子を感じ取るにより人生の転換点となる「指標」を見いだせると思います。

指標と行事

校友会は酪農学園同窓会と協力して大学同窓会を実施しております。それは各支部総会・懇親会として毎年または数年おきに開催されています。すなわち同窓会が

年中行事または一定年の周期をもって開催されていることとなります。それは皆さんが同窓会に行くことは「同窓会も自分の行事のひとつ」としての意味をもたせることになるからです。確かに大学を卒業した時は同じスタートで幸福を望んでいましたが、その後の行先は多様で、人の努力や思いと異なる偶然性に運命を支配され、それが「同窓会に行けない」理由となることもあるようです。しかし同窓会には「人生の指標」となるものが潜んでいて、生活の一部として行事化すると自分の現在位置を示してくれることになり、向かおうとする方向性や希望が見えてきます。



行事性のある同窓会

広い酪農学園の畑は収穫を終え、春を待っています。その姿は順調にめぐらされた農業儀礼を終え、あたかも植物の周期性を期待しているようで自然の摂理さえ感じます。農業は酪農学園の「循環農法」にあるように「天地人」に支配され「今は何をやる時期か」をはっきりさせている産業です。その「はっきり」を確認しあうためには年中行事が一番であります。人生において生活目標を失わずに到達目標に近づくためにも、ぜひ行事性のある同窓会に参加してほしいと感じております。

おわりに

親睦を第1の目標とする校友会は皆様との交流を通してこれまで発展してきました。それができたのは節目としての各種行事に取り組んできたことによるものと思っています。論語の「朋遠方より来たる、亦た楽しからずや」は校友会の「親睦」の真髄になると思います。

■循環農学類「学類の近況」

循環農学類長 中辻 浩喜

同窓生の皆様には、ますますご健勝のことと存じます。また、日頃からの学類の教育研究ならびに運営等に対するご支援に深く感謝申し上げます。

さて2011年4月、従来の学部・学科体制から2学群5学類体制に移行するにあたって酪農学科と農業経済学科が統合されて発足した循環農学類は、今年度で9年目を迎え、2019年3月に5期生241名が社会へと巣立っていきました。卒業生を送り出したのも束の間、4月には新入生273名を迎え入れ、2019年9月1日現在、学類全体として1,093名の学生が在籍しております。相変わらずの大所帯ですが、48名の学類教員が学生指導にあっております。

この1年間の教員の異動についてご報告いたします。2019年3月をもって高橋圭二教授（農業施設学）が定年退職を迎えられました。この場をお借りし、先生のこれまでの教育研究および学類運営に対する多大なご貢献に感謝申し上げます。高橋先生は現在、これまでの多くの経験や幅広い専門分野の知識をいかした「個人事業主」として活動されるとともに、非常勤講師として引き続き学類の講義や実験実習のみならず、基盤教育の実習もご担当いただいております。

一方、2019年4月には、土井和也助教（家畜飼料学）が着任されました。また、嘱託講師の薦田優香先生（植物病理学）が晴れて、専任の准教授として採用されまし

た。土井先生は、「高齢化」が進む学類教員の中にあって、久しぶりの20代の教員です。また、農業高校出身ということもあり学生との距離も近く、今後の学類を担う大学教員として研鑽を積んでいただきたいと思います。薦田先生には、引き続き学類メンバーとして益々ご尽力いただくとともに、学類の数少ない女性教員（3名）のリーダー的存在としての役割を期待しております。うれしいことはまだあります。柴田啓介助教（嘱託）（健康スポーツ科学）が2019年3月、北海道大学より博士（教育学）の学位を授与されました。柴田先生には、酪農現場におけるスポーツ科学の応用など、「酪農」を標榜する本学の体育科教員としての益々の活躍を期待しております。私ども循環農学類所属教員は、学内での学生教育・研究にとどまらず、農畜産現場での実践指導や政策助言、講演会・講習会講師等、この紙面では紹介しきれない数多くの「エクステンション活動」を行っております。これらの内容については、本学ホームページの「トピックス」(<https://www.rakuno.ac.jp/>)および「教員総覧」(<http://souran.rakuno.ac.jp/search/index.html>)をご覧ください。幸いです。

最後になりますが、今後とも循環農学類の教育研究充実のため、学類メンバー一体となって努めて参ります。同窓生の皆様には引き続きご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。



2019年3月学類5期生卒業記念写真

■食と健康学類「学類の近況」

食と健康学類長 竹田 保之

食品科学科、食品流通学科ならびに食と健康学類卒業生の皆様におかれましては、いかがお過ごしでしょうか。2019年も九州北部や千葉県では大きな台風禍がありました。被災された皆様には心よりお見舞い申し上げます。特に千葉県では長期にわたる停電が発生し、その1年前の胆振東部地震の怖さを思い出した人も多いかと思いますが、厚真町ではその爪痕はまだ残っております。より早い復興を願うばかりです。

さて、2019年3月には食と健康学類5期生164名（うち管理栄養士コース40名）が、9月には2名（管理栄養士コース）も社会へと巣立ちました。また、3月末に行われた管理栄養士国家試験においては卒業生のうち37名が合格いたしました。

一方、本年度は学類全体で148名（うち管理栄養士コース43名）の入学者があり、2019年5月1日時点で総勢688名（うち管理栄養士コース182名）の学生が在籍しております。

教員の異動につきましては2019年3月をもって小林祥子助手、鈴木央助手のお二人がご退職されました。両先生には学類の教育、研究そして国家試験対策にご尽力いただきました。改めて感謝申し上げますとともに、益々のご活躍を期待しております。また、2018年4月にご着任されました若宮伸隆教授（医学・生理学研究室）は大学の規定に基づき、2019年3月にてご退職となりましたが、引き続き嘱託教授として管理栄養士コースにおける教育、研究と国家試験対策さらには学校医として引き続き重責を担われております。2019年4月より齋藤恵助手と奥山ちひろ助手の2名の先生が新たに勤務されました。管理栄養士コースの授業はもとより、学類授業全般のサポートで忙しい日々を過ごしております。

この1年も食と健康学類の学生がさまざまな表彰を受けております（表）。ご指導いただいた先生方も合わ

表 学生表彰者（2018年10月～2019年9月）

大会名	賞と受賞者
北海道体育学会第58回大会	若手研究者賞； 佐藤 未来（食・健康スポーツ科学研究室）
第11回全日本大学対抗 ミートジャッジング競技会	グループディスカッション部門入賞； 熊崎 冬生（肉製品製造学研究室）
トレーニング後におすすめの牛乳を利用した筋肉料理コンテスト（学内）	優 秀 賞； 八田早那子（食・健康スポーツ科学研究室）

せて、お喜び申し上げます。

数年前から行われておりますワインプロジェクトの一環として行っておりますロゼワインの製造を2018年度も行うことができました（写真）。2019年度版も完成しました（限定1,000本）。大学ホームページより専用注文書をダウンロードできるようになっていますので是非、ご賞味ください。また、従来通り乳製品、肉製品も製造し大学生協で販売しております。牛乳は2019年7月より週1回（原則水曜日）、コープさっぽろルーシー店（札幌市白石区）でも販売を始めました。大学にお越しの時だけでなく、店頭でお見かけの際もお買い求めいただければ幸いです。

食品科学科、食品流通学科ならびに食と健康学類の同窓生の皆様におかれましてはご健康に留意され、ますますご活躍されることをご祈念申し上げます。近年の少子化は食と健康学類にも確実に、そして目に見える影響を与えてきております。教職員一同、学類の発展になお一層努力してまいります。今後とも食と健康学類の教育、研究に格段のご理解とご協力のほどよろしくお願いいたします。



写真

■環境共生学類「学類の近況」

環境共生学類長 佐藤 喜和

環境システム学部ならびに環境共生学類卒業生の皆様におかれましては、ますますご健勝のこととお喜び申し上げます。日頃より学類の運営等にご理解とご支援を賜り、心より感謝申し上げます。

環境共生学類では、2019年4月より、伊藤哲治助教、加藤亜友美さんが助手として着任されました。伊藤先生は、野生鳥獣管理学研究室を担当されます。日本大学大学院で博士（生物資源学）の学位を取得後、株式会社野生動物保護管理事務所関西分室（兵庫県）を経て着任されました。大型哺乳類の管理を中心に、これまでの実務経験を活かして本州の野生鳥獣管理についても教育研究を進めて頂きます。早速本年度からゼミ生の指導や多くの講義を担当頂いています。今後の活躍にご期待ください。加藤助手は、2019年3月に酪農学園大学大学院修士課程を修了しての着任となりました。主に野生動物学コースの実習補助と学類教育のサポートを担当しています。また、吉田磨先生が教授に昇格されました。

2019年3月には、5年間にわたり環境共生学類の学生教育をサポートして下さった中谷（細田）祥子助手、

白鳥聖也助手が任期満了で退職されました。今後新たな道でのご活躍を祈念いたします。

2019年6月10日には、野幌森林公園に78年ぶりにヒグマがやってきました。翌11日には隣接する大学敷地内の森にも来ていたことが、環境共生学類野生動物学コース3年生の「実践野生動物学実習」で学生が設置したカメラトラップにより確認されました（写真）。

2018年12月には、（一社）鳥獣管理技術協会（宇都宮市）が実施している鳥獣管理士の資格認定試験が本学で行われ、環境共生学類野生動物学コースの認定カリキュラムの必要単位を取得した学生が受験し、3級に15名、2級に18名、準1級に1名合格しました。また、2019年5月には、同じく全国初の認定カリキュラムとなった（一社）エゾシカ協会（札幌市）が実施しているシカ捕獲認証レベル1の資格認定試験が本学で行われ、必要単位を取得した学生が受験し、11名が合格しました。

同窓生の皆さまのご健康とますますのご活躍を祈念いたしております。今後とも環境共生学類の教育・研究にご理解とご協力頂けますようお願いいたします。



野幌森林公園に隣接する酪農学園大学敷地内の森林で撮影されたヒグマ。2～3歳の雄と思われる環境共生学類3年生が実習で設置したカメラトラップにて2019年6月11日撮影

■獣医学類「学類の近況」

同窓生の皆様におかれましては、ますますご活躍のこととお喜び申し上げます。また常日頃から、獣医学類の教育研究活動等にご支援いただき感謝いたします。本会報の原稿締め切り間際に、本来であれば皆様に近況報告申し上げるべき山下和人学類長が突然執筆不能となり、急遽代理で学類の近況を報告させていただきます。

この1年間の獣医学類の教員の異動は以下のとおりです。2019年3月をもって生産動物外科学ユニット田口清教授が定年退職され、名誉教授になりました。2018年4月に病気療養から復職され、最後の1年間で主にアドバンスト教育に尽力されました。獣医学科外科学第2教室から20年近くにわたり教育研究そして臨床活動に従事され、多くの獣医師を送り出してこられました。体調回復が万全でなく、最終講義も退職祝賀会も辞退されましたので、生産動物医療学分野で実施した慰労会の写真をごにこご紹介いたします。教員の昇任に関しては、伴侶動物内科学Ⅱユニット玉本隆司講師が准教授に、獣医病理学ユニット佐野悠人助教および獣医放射線生物学ユニット華園助助教が講師にそれぞれ昇任されました。今後ますますの活躍が期待されま

獣医学類長代理 田島 譽士

す。新任は、生産動物外科学ユニットに佐藤綾乃助教、獣医解剖学ユニットに細谷実里奈助教、伴侶動物医療学分野に富田彬正嘱託助手がそれぞれ着任されました。学生ほどではありませんが、獣医学類の教員構成も女性の比率が高まりつつあります。

その学生の男女比率も昨年まではおおよそ五分五分でしたが、2019年度入学生の男女比は2：3と女性の比率が高くなりました。これは、獣医学関連領域においては世界的傾向であり、日本もそれに準じてきているのではないかと考えられます。畜産関連職種における女性比率も高まりつつあり、これも世界情勢に近似してきています。一方、本学の獣医学教育内容が国際水準にあるかどうかの指標を探るため、すでに設定されている欧米の基準を参考にすべく、欧州基準の予備評価を受審する準備が進められています。皆様に本会報が届く頃には、何らかの道筋が示されていることと思われま

今後とも同窓生の皆様からのご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げますとともに、皆様のご健勝とご活躍をお祈りいたします。



生産動物医療学分野で実施した田口清教授慰労会

■獣医保健看護学類「2019年の出来事」

獣医保健看護学類長 北澤多喜雄

皆さんこんにちは！校友会便りをお届けします。獣医保健看護学類の学類長を拝命している北澤多喜雄です。よろしくお願いいたします。獣医保健看護学類は教育システムを変更した2011年4月に開設されましたので本年度で9年目を迎えています。今回の校友会便りでは、志願者状況、米国のパデュー大学との学術交流協定締結と研修開始、愛玩動物看護師法について述べてみたいと思います。

2018年度落ち込んだ学類の志願者数は、2019年度も戻らず横ばい状態で入試選抜ではかなりの苦戦を強いられましたが、なんとか定員60名（本年度から定員が10名増えました）に対して63名を確保することができました。また、2019年度の推薦入試では新しく生産動物看護師養成枠での応募が始まり2名の学生が入学しました。高校生を含め学外へ学類の特色をアピールしていくため1、2年生での専門基礎科目を獣医学類と共通で行い、3年生からは伴侶動物看護基礎応用、伴侶動物看護臨床および生産動物看護の3つのプログラムに分かれるという新カリキュラムを2020年4月から実施する予定で準備に入っております。一方、出口の卒業の方では、3月に5期生を輩出しました。5期生の就職先では民間小動物病院の動物看護師が初めて40%を切りました。他に、民間企業（動物関連、非動物関連）が40%程度、他に生産動物関連（農協、人工授精師等）、進学（大学院含む）、公務員等があり多様な職場で卒業生は頑張っております。

国際交流では米国パデュー大学との学術交流協定が

2019年1月末に締結されました。それに沿い、6月には動物看護学科の学生5名と引率の教員（麻酔が専門の井上先生）が来学されて2週間の研修（動物医療センター、学外動物病院見学、学内外の農場見学等）を行いました（写真1）。また、3名の学生と引率の菅野先生が7月に2週間の臨床研修をパデュー大学で行って来ました。パデュー大学との交流は教員レベルでも進んでおり、9月より動物行動生態学の郡山先生が1年間の予定でパデュー大学に留学しました。以前から行っていた米国のフィンドレー大学との学術交流では看護学類がホストになり、動物医療センターや獣医学類教員、学外の動物関連施設の全面的な協力を頂き種々の講義・実習を行っています（写真2）。国外の大学との交流には地道で継続的な活動が必要です。今後も多くの方々の協力を頂きながら進めていきたいと思っています。

これまで2019年度の現状について紹介してまいりましたが、学類設立後9年経った2019年6月に動物看護師を巡る社会情勢に大きな変化が起こりました。ご存知の方も多いと思いますが「愛玩動物看護師法」が成立し3年以内に施行されることになりました。学生募集も少しは楽になるのではと思うところがありますが、この点はどの大学も同じかなと思います。今後、更に酪農学園大学獣医保健看護学類の特徴、強みは何かを明確に学外に提示していく必要があります。しかしながら、学類教員の努力のみではできないことも数多くありますので、同窓会校友会の皆様には今後ますますの学類のサポートをお願いします。



写真1 パデュー大学研修生とホームパーティーでの交流

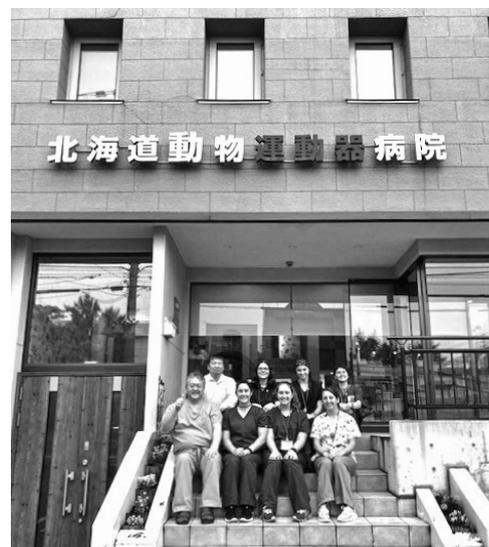


写真2 フィンドレー大学研修生の学外動物病院研修

学生の教育、生活支援

教育センター長 中出 哲也

同窓生の皆さまにおかれましては、益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。教育センターで取り組んでいる主要な事案についてお知らせ致します。

教務課においては現在3つのポリシーを踏まえた履修モデルを作成し、カリキュラムツリーを基にした科目のナンバリング、カリキュラムに合致したコース制の検討と共に科目数の削減を計画しています。また、高大一貫教育は引き続き大学附属高校と連携しながら充実を図ります。大学附属高校と教職コースそれぞれの実習科目の連携により高大連携強化と農業科教員を目指す学生の資質向上を目指します。

教職センターでは、他大学の通信制課程を利用した

特別支援教員免許の取得を推奨するとともに、「准学校心理士」申請加盟校への加入による当該資格取得を推進していきます。

学生支援課では、開始から4年目を迎える学生の自由な発想に基づく正課外活動支援「学生チャレンジプロジェクト（酪チャレ）」の応募を継続的に促進、実施します。健民館(多目的体育施設 2020年3月竣工予定)に伴う施設の利活用に関する規程を整備し、学生の課外活動の場を充実します。キャンパス内の禁煙啓蒙運動を継続し、学生の健康増進に努めます。教育センターは学生の教育、支援に関して教職員一丸となって学生サービスを提供して参ります。

学生のキャリア形成を支援する

キャリアセンター長 金田 勇

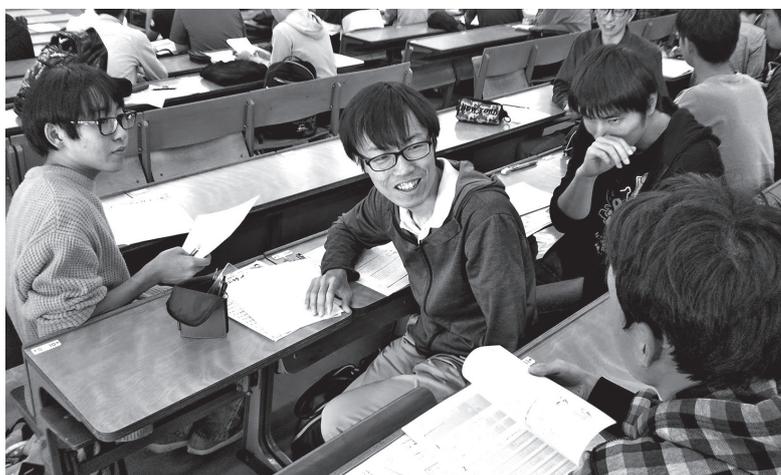
同窓生の皆さまにおかれましては、ますますご健勝のこととお慶び申し上げます。日頃よりキャリアセンターの運営等にご理解とご協力を賜り、心より感謝申し上げます。

キャリアセンターは、2018年4月に就職部就職課から名称変更いたしました。就職部就職課では、就職活動に関する基礎的な相談やアドバイス、キャリア支援講座の開講、就職活動時期に応じたガイダンス、個人面談等、学生一人ひとりの希望の進路実現に向けた支援を行ってまいりましたが、名称変更を機に、キャリア教育を通じて、学生自らが将来を見据えて自分自身の人生設計を描き、自己成長を促すための指導・支援を行うという新しい役割が加わりました。

現在、キャリアセンターでは、センター長、副センター長、正職員5名、契約職員4名の計11名のスタッフで、約3,500名の学生（大学院生を含む）のサポートにあたっております。

毎年少なからぬ学生諸君が同窓生の関係する企業等に就職しております。学生も採用する側もお互いに同窓生ということで安心感があるのかもしれませんが、このようなリクルートに関するご相談がございましたらお気軽にキャリアセンターの方までご一報ください。

今後も学生支援の充実を目指して、スタッフ一丸となって取り組んでいく所存です。引き続きご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。



キャリアデザインⅡ授業の様子

第5回学生応援企画メニュー実施報告

本年度で5回目となる大学同窓会校友会による事業の1つ、準会員（学生）応援企画メニューを酪農学園生協の協力により6月中4回にわたり実施いたしました。日替わり丼物に健土健民牛乳を付けたメニューを200円で提供させていただき午前10時から午後2時までに各日250食限定、4日間で1,000食を用意いたしました。5回目の実施となり多くの学生に知っていただき全日、昼までには完売するという盛況ぶりでした。新入生にも広く知っていただくため学内に早くからポスターを掲示させていただきました。開催中食堂に行くと美味しそうに丼物を頬張りながら談笑するたくさんの学生に会うことができました。食事中にもかかわらず写真撮影に快く応じていただき大変感謝いたします。次年度も多くの学生に喜ばれるようなメニューを考案し事業の一環として実施していきたいと思っております。



校友会より暗幕30枚が寄贈されました

この度、在学生の活動を支援するため酪農学園大学同窓会校友会より暗幕30枚が大学に寄贈されました。2018年度まではテントを寄贈いただいておりますがちょうど今使っている暗幕が長年の使用による汚れや損傷などで交換を考えていたタイミングでした。この暗幕は白樺祭（大学祭）や音楽系サークルのライブ、演劇系クラブなどで毎年貸し出される予定です。ありがとうございます。大切にさせていただきます。

（文責 教育センター学生支援課長 加藤浩）



第28回ホームカミングデー開催報告

本年度のホームカミングデーは2019年7月6日（土）白樺祭と同日開催として2回目を迎え黒澤記念講堂を会場に約70名の同窓生、在学生、学園関係者に出席いただきました。はじめに小山久一同窓会長の開会あいさつに続き、記念礼拝（物故者追悼含む）が朴美愛学園宗教主事の司式で行われました。讃美歌合唱のあと、聖書「ルカによる福音書15章20～24節」を朗読、加藤清雄校友会事務局長が1年間でご逝去された同窓生、旧職員のご芳名を読み上げました。その後、朴宗教主事から「帰郷」のテーマで奨励をいただき、最後に全員で酪農讃歌を合唱して記念礼拝を終えました。

続いて記念講演に先立ち、酪農学園を代表して谷山弘行理事長より学園の状況や講演いただく講師への謝意が述べられました。引き続き同窓生代表として草野竹史氏（大学経営環境学科1期生）を講師に迎え「若者による持続可能な地域づくりへの挑戦」と題して講演いただきました。スライドや配布資料により自己紹介とNPO法人 ezorock 代表としての今日までの道のり、若者たちとの様々な取り組みを紹介いただきました。NPO法人設立のきっかけとなった「ライジングサンロックフェスティバル」のごみ拾いなどの活動もお話いただきました。札幌圏に集中する若者を道内各地に送り、地元との連携を図り地域課題に取り組み、災害が起きると被災地支援に集中するという大変素晴らしい活動内容の講演となりました。

次に本学環境共生学類、社会連携センター長の金子正美教授から「健土健民とSDGs（持続可能な開発目標）」と題して講演いただきました。金子教授にはスライドでSDGsについてわかりやすく説明いただき「パームやし」の栽培を例に、現在の私たちの生活により途上国の森林破壊が進みオランウータンの生息地が奪われていることとの関連性、本学の建学の精神特に循環農法図と持続可能な社会との共通点についてお話いただきました。「酪農讃歌」の歌詞が「SDGs」に当てはまることも解説いただきました。両者の講演後には20分ほど対談や意見交換、参加者との質疑応答などが行われその後、加藤校友会事務局長の閉会のあいさつで記念講演を終了いたしました。次年度のホームカミングデーは大学開学60周年記念事業と共同開催の予定です。



記念礼拝の様子



講師の草野竹史氏



講師の金子正美氏

～第29回ホームカミングデー開催予定～

日 時	2020年7月4日（土）
会 場	黒澤記念講堂（予定）
内 容	記念礼拝（物故者追悼含む） 記念講演 講師未定

※大学開学60周年記念事業と共同開催の予定
詳細は決定次第、同窓会 HP 等でお知らせします

大学合同周年記念同期会報告

2019年7月6日（土）白樺祭、ホームカミングデー同日の午後6時より大学同窓会校友会の企画により新さっぽろアークシティホテルにて大学合同周年記念同期会を開催。昨年に引き続き獣医学科は独自に企画・開催されているため獣医学科以外の同窓生、卒業10、20、30、40、50周年を迎える皆様にご案内しました。道内の他、大阪、兵庫、埼玉など約30名の同窓生や恩師にご参加いただきました。加藤清雄事務局長の司会で進行

し、ホームカミングデー講師の草野竹史氏（大学経営環境学科1期）と金子正美教授（本学環境共生学類）にもご出席いただきました。一人ひとり昔話や近況報告など和やかで楽しいひとときを過ごしました。これを機会に同窓生の絆が深まり独自に同期会など企画開催されることを願っています。

次年度の大学合同周年記念同期会は大学開学60周年記念祝賀会と共同開催の予定です。



今回の大学合同周年記念同期会は2020年7月4日（土）大学開学60周年記念祝賀会と共同開催の予定

ご案内する学科・期は以下のとおりです。
対象の皆様には文書を郵送予定です。

- （酪農学科7期、17期、27期、37期、47期）
- （農業経済学科6期、16期、26期、36期、46期）
- （食品科学科9期、19期）（食品流通学科13期）
- （経営環境学科9期）（地域環境学科9期）
- （環境マネジメント学科2期）（生命環境学科2期）



退職記念祝賀会報告

■ 2019年2月22日（金）午後7時よりホテルエミシア札幌で高橋圭二教授の循環農学類退職者を囲む晩餐会を35名の学類教員で行いました。中辻学類長挨拶・乾杯で始まり高橋先生の公私に渡るエピソードが披露され、後半には記念品と花束の贈呈がありました。最後に堂地学群長よりあいさつと高橋先生の今後を祈念した万歳三唱を行い、盛会のうちに閉会しました。



獣医周年記念同期会報告

■ 2019年6月22日（土）獣医学科12期40周年記念同期会、2018年北海道胆振東部地震により延期になっていましたが参加者54名により開催。黒澤記念講堂で記念礼拝、その後学内施設と附属動物医療センターを見学しました。札幌ガーデンパレスに移動して懇親会が行われ、出席者一人ひとり近況報告を行いました。代表幹事に中出哲也氏、幹事に原英文氏。



■ 2019年7月20日（土）獣医学科20期30周年記念同期会、参加者58名で黒澤記念講堂にて記念礼拝。札幌ガーデンパレスに移動し懇親会を開催しました。松本眞一代表幹事から挨拶、平棟先生から祝辞、種池先生の乾杯でスタート。思い出話に花が咲きましたが新山先生から閉会の挨拶で場所を変え二次会へ。10年後また会うことを約束し酪農讃歌で楽しい宴を締めました。



■ 2019年7月28日（日）獣医学科3期50周年記念同期会、酪農学園大学中央館1階ロビーに集合。中出哲也教授の案内で学内施設や付近の状況説明、充実した附属動物医療センター内の見学をさせていただきました。懇親会は札幌に移動し物故者に黙祷。参加者21名の近況報告、欠席者の近況報告が配布されました。幹事は熊谷眞佐人氏、富士元祥治氏、天野博次氏、橋本弘二氏。



■ 2019年9月15日（日）獣医学科31期20周年記念同期会、道内外および海外からの同窓生53名と教員2名で開催しました。懇親会はニューオータニイン札幌で種池哲郎名誉教授の乾杯の音頭で開始、同窓生の椿下准教授作成の動画を上映。参加者全員の近況報告などを終え、その後二次会三次会へと楽しいひとときは続きました。代表幹事に瀬野貴弘氏、幹事に椿下早絵氏。



■ 2019年10月13日（日）獣医学科41期10周年記念同期会、台風19号の影響で予定の40名から減りましたがホテルエミシア札幌で開催いたしました。竹花学長より今後の獣医療についてお話いただき、その後出席した同窓生一人ひとり“10年後の自分へのメッセージ”を発表しました。楽しいひとときはあっという間で酪農讃歌を合唱し閉会しました。幹事に堀あい氏。



2019年度酪農学園大学同窓会校友会理事・代議員会報告

2019年5月17日（金）午後6時より新さっぽろアー
クシティホテルを会場に2019年度酪農学園大学同窓会
校友会理事・代議員会が理事9名、代議員13名、監事
2名の出席により開催された（委任状11名、事務局2
名）。最初に加藤清雄事務局長の司会で進行し、議長は
小山久一会長が務めた。冒頭小山議長のあいさつのと
議事が進められ、議事録署名人には佐藤元昭理事、吉田
陽平代議員が選出された。

議事第1号2018年度事業報告並びに収支決算、監査
結果について報告され、同窓会支部活動助成費と獣医同
窓会活動費の具体的な内容開示要望があり、次年度関係
資料を回覧することとなった。第2号2019年度事業計
画並びに新たに追加された代行徴収手数料や同窓生会館
施設管理費（基金）を含む収支予算が提案され審議の結
果承認された。

最後に小山会長よりあいさつがあり本年度の理事・代
議員会を閉会した。



物故者 2018年4月から2019年3月

ここに謹んでご冥福をお祈り致します。

- | | |
|----------------|---------------|
| 佐々木博行（酪農・4期） | 竹中 靖則（酪農・4期） |
| 北原 研一（酪農・6期） | 野嶋 利平（酪農・8期） |
| 石原 俊一（酪農・9期） | 中井 進（酪農・12期） |
| 大治 桂子（酪農・28期） | 奈良崎康弘（酪農・32期） |
| 松田 達夫（農経・3期） | 今野 穂（農経・19期） |
| 牧 郁夫（農経・25期） | 橋 直美（獣医・2期） |
| 森田 正治（獣医・2期） | 酒井 博邦（獣医・5期） |
| 白川 潤（獣医・6期） | 三保 玄城（獣医・7期） |
| 森田 正一（獣医・11期） | 安田三奈子（獣医・13期） |
| 菅井 龍（獣医・15期） | 岸田 賢伸（獣医・23期） |
| 井元 美幸（食と健康・3期） | 敬称省略 |

会計報告 2018年度決算および2019年度予算について下記のとおりに承された

収入 (単位:円)

項目	2019年度予算	2018年度決算	2018年度予算	備考
前年度繰越金	12,490,596	12,158,145	12,158,145	
新同窓会費	27,210,000	27,600,000	25,750,000	30,000円×650名 60,000円×135名
同窓会費	60,000	2,175,000	1,935,000	15,000円×145名
預金利息	5,000	4,591	5,000	
助成金	10,000	10,000	10,000	学園同窓会より
ホームカミングデー分担金	200,000	190,000	200,000	学園・関係団体より
獣医同窓会費返還預り金	0	0	0	獣医同窓会より
雑収入	0	0	100,000	
合計	39,975,596	42,137,736	41,978,145	

支出

項目	2019年度予算	2018年度決算	2018年度予算	備考
校友会事業費	12,482,000	10,655,607	13,260,000	
入学式関係費	1,400,000	1,360,359	1,600,000	バスケース、案内文書
卒業式関係費	7,582,000	6,236,018	8,160,000	パーティー会費補助他
在学生関係費	1,000,000	902,188	1,000,000	白樺祭助成金他
同窓生関係費	300,000	254,880	300,000	記念品作成
ホームカミングデー関係費	300,000	265,658	300,000	備品、謝礼金他
会報関係費	700,000	682,706	700,000	印刷代
周年記念同期会 退職記念祝賀会助成金	1,200,000	953,798	1,200,000	印刷代、助成金他
同窓会支部活動助成費	7,315,000	7,840,000	7,840,000	通信・活動費助成他
獣医同窓会活動費	3,904,500	4,050,000	4,050,000	30,000円×135名
代行徴収業務委託手数料	1,363,500	0	0	酪農学園（5%）
同窓会費返還金	0	1,085,000	0	退学者45名分（25,000円 41人、15,000円4人）
獣医同窓会費返還金	0	0	0	退学による返還金
校友会運営費	3,850,200	3,296,533	3,620,200	
会議費	100,000	79,000	150,000	理事・代議員会他
同窓会負担金	640,200	640,200	640,200	学園同窓会
人件費	2,700,000	2,267,136	2,300,000	事務局長手当て含む
通信費	60,000	49,708	70,000	電話料・郵送料
旅費交通費	60,000	48,920	60,000	理事・代議員会他
慶弔費（福利厚生費）	10,000	1,123	20,000	弔電
事務用品費	150,000	104,455	250,000	コピー代他
消耗品費	50,000	41,839	50,000	マットリース代他
雑費	80,000	64,152	80,000	振込手数料
雑支出	1,000,000	2,720,000	2,720,000	基金へ
小計(a)	29,915,200	29,647,140	31,490,200	
予備費	10,060,396	0	10,487,945	
当期余剰金	0	12,490,596	0	
小計(b)	10,060,396	12,490,596	10,487,945	
合計(a+b)	39,975,596	42,137,736	41,978,145	

(単位:円)

基金	金額
卒業記念事業費（準会員積立金）	54,460,000
周年事業費	17,341,939